

Q1：中計資料に目標売上高が提示されていないのはなぜか。もし、開示できるのであれば売上高のイメージを教えてください。

A1：EBITDA、ROCE の重視を社内で浸透させる目的で、今中計の経営目標からは目標売上高を外しております。仮に中計の経営目標を達成した場合、2020年の売上高は1兆7000億円程度になると予想しています。

Q2：2020年の営業利益1,600億円に関して。増益のドライバーは戦略事業だと思うが、どの商品がけん引するのか？

A2：戦略事業のうち、最も伸びるのはエレクトロニクス、次はライフサイエンスと見えています。モビリティについては、2020年はまだ仕込みの段階で本格的な利益貢献はもう少し後になると考えています。

Q3：ガラスセグメントの営業利益が2017年の271億円から2020年に450億円へと大きく増えているが、要因は何か？

A3：売上は順調に伸びておりますが、利益率に改善の余地があると考えています。建築用ガラスは、昨日日本で値上げを発表したばかりですが、欧州を中心にまだ値上げの余地があると考えています。またコーターへの投資などを通じて、高付加価値品へのシフトを進めています。自動車用ガラスは、近年欧州で大きく受注を伸ばすことに成功しましたが、短期的には生産体制が追いつかずに機会損失が発生しています。足元の状況は若干良化しておりますが、本格的な業績への貢献は、2019年のモロッコ設備立上げ後になると見えています。

Q4：電子セグメントの足元の利益構成について教えて欲しい。また電子部材が伸びているとのことだが、今後の見通しは。

A4：絶対額で言えば今でもディスプレイの方が大きいものの、昨年電子部材は大幅な増益を達成し、営業利益率も大きく改善しております。電子部材は半導体とオプトエレクトロニクスの二本柱がともに業績好調で、昨年からはEUVの利益貢献も始まりました。今後も好調に推移すると見込んでおります。

Q5：今中計期間、塩ビと苛性ソーダの市況をどう見ているか。

A5：東南アジアを中心に引き続き堅調な需要が見込まれる一方で、他社生産プラントの増設計画も見込まれていないため、価格は当面今の水準が続くと考えています。足

元のエチレン価格上昇で短期的にスプレッドは小さくなっておりませんが、北米におけるシェールガス由来のエチレン増産もあり、中長期的には利益率が下がるとは見ておりません。

Q6：2018年の原油と為替の感応度、及び業績への影響額について教えてほしい。

A6：原油については、1ドル/バレルあたり3億円/年の減益効果と見ています。2018年は前年比で約10ドル/バレルの上昇を想定しているので30億程度の減益を見込んでいます。為替は、全通貨が円に対して同じ方向に動くとニュートラルになると見ておりますが、各通貨がバラバラの動きをすると、その限りではありません。足元では対東アジア通貨で大きく円安に動いており、電子セグメントを中心に数十億円程度の減益になる可能性があります。

Q7：総還元性向はこれからも同じスタンスで続けていくのか。

A7：配当と自己株取得の組み合わせで総還元性向50%は達成していきたいと思っています。

以 上